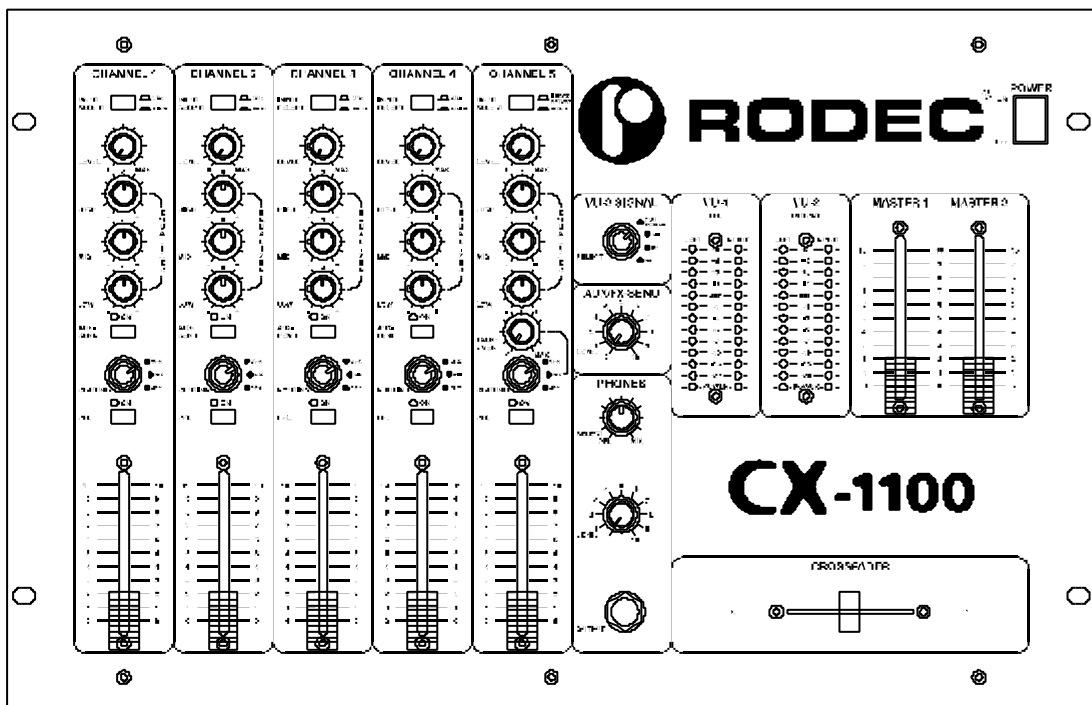




CX-1100

ユーザーマニュアル



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment

S p e c i a l i s t

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

SPECIFICATIONS

入力	入力感度	S/N 比	備考
PHONO 1-3 LINE 1-4, 4B, 5 MIC 5 symm.	2.3mV/50k? 220mV/50k? 3.5mV/3.3k?	< -77dB < -90dB < -85dB	RIAA correction
出力			
Master 1 symm. Master 1-2 assymm. Aux/FX-send assymm. Recording 1-3 Aux Phones	3.3V/600? 1.55V/10k? 775mV/10k? 500mV/10k? 775mV/10k? 12V/600?		Subsonic filter Subsonic filter Phones 200-600?

- トーンコントロール: Bass +/-13dB @ 100Hz
Middle +/-13dB @ 1kHz
High +/-13dB @ 10kHz
- サブソニック・フィルター: -25dB @ 10Hz
- 電源: 100V-117V / 50Hz-60Hz
- ヒューズ: T500mA
- 消費電力: OFF=2.0VA ON=34.5VA
- Approbation: CE-approved
- 寸法: フロント: 482mm x 310mm (19" x 7U)
シャーシ: 444mm x 295mm x 120mm
- 重量: 6.52kg

この度は RODEC ミキサー、CX-1100 をお買い上げいただき、誠に有難うございます。製品の性能をフルに活用し未永くお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚、お読みになった後は保証書と一緒に大切に保存してください。

SAFETY INSTRUCTIONS 安全上のご注意

- 1) 雨天や湿気の多いところで製品を保管/使用しないでください。本体に液体をこぼしたり、金属片などが機材内部に入らないようご注意ください。電気ショックの原因となる恐れがあります。本体内部に異物が混入した場合、電源ケーブルを抜いてください。
- 2) 損傷のあるケーブルやプラグを使用すると、火災や電気ショックが発生する恐れがあります。電源ケーブルを傷めないようご注意ください。電源ケーブルをコンセントから抜く際は、必ずプラグ部分を持ち、ケーブル部分を持ってプラグを引き抜かないでください。
- 3) お客様自身で交換/修理可能な部品はありませんので、本体を解体しないでください。本体に不具合が生じた場合、販売店にご相談ください。
- 4) 定格電圧（100V / 50Hz-60Hz）を守ってお使いください。
- 5) 本体の清掃に薬品は使用しないでください。損傷の原因となるため、フェーダーに接点復活剤などを使用しないでください。

INSTALLATION OF THE MIXING PANEL 本体の設置

- 1) CX-1100 は DJ ブースに置くかラックマウントして設置できます。
- 2) 直射日光の当る場所、ホコリや湿気の多い場所での設置は避けてください。

- 3) 干渉の恐れのある電気機材のそばに設置しないでください。

FRONTPANEL, SWITCHES AND CONTROL フロントパネル、スイッチ、コントロール

- 1) **Power switch 電源スイッチ**
本体に AC 電源を供給します。スイッチを押すと本体の電源が ON になり、再度押すと OFF になります。
- 2) **Power "ON" on indicators 電源 ON インジケーター**
本体の電源が ON の場合、インジケーターが点灯します。
- 3) **VU meters VU メーター**
左側の VU メーター × 2 は PFL もしくはスプリット信号を表示します。VU-2 信号セレクトスイッチ (4) の設定に従い、右側の VU メーターには出力信号レベルが表示されます。
- 4) **VU-2 signal select switch VU2 信号セレクトスイッチ**
右側の VU メーター × 2 に表示されるチャンネル信号を選択します。スイッチが AUX/FX-SEND に設定されている場合、AUX/FX-SEND 出力レベルがメーター表示されます。また MIX に設定した場合はミックス信号がメーター表示されます。MASTER1 または MASTER2 に設定すると、対応する出力信号が表示されます。
- 5) **Phones output フォン出力**
ヘッドフォン・モニター用の出力端子です。PFL スwitch(8)を使用して、出力信号を変更することなく接続された音源や出力 (スプリットモード時) をモニターすることができます (ヘッドフォン 200 ~ 600)。
- 6) **Phones control フォンコントロール**
このボタンでヘッドフォンのボリューム設定を行います。
- 7) **Phones-select potentiometer フォン選択ポテンシオメーター**
このスイッチでヘッドフォンの左耳でモニターできるサウンドを PFL とミックス信号の 2 つから選択できます。ヘッドフォンの右耳および左側の PFL VU メーターには PFL 信号が表示されます。
- 8) **PFL switches PFL スwitch**
このスイッチでヘッドフォンから聞こえる入力ソースを選択することができます。
- 9) **Input selector 入力セレクター**
このスイッチで入力信号を選択します：チャンネル 1 ~ 3 の場合 LINE/PHONE、チャンネル 4 の場合 LINE/LINEB、チャンネル 5 の場合 LINE/FX-RETURN または MICRO
- 10) **Level adjuster レベル調節**
各入力の信号レベルを調整します。
- 11) **Equalizer controls イコライザー・コントロール**
高域、中域、低域レベルをコントロールします。
- 12) **AUX-SEND switch**
このスイッチを押すと、対応するチャンネル信号が AUX SEND バスに送信されます。AUX SEND 出力を經由してエフェクターやモニターに信号を送信する際に便利です。CX-1100 内部ジャンパを設定すれば、信号の PRE/POST フェーダー設定も行えます。

- 13) **Routing selector ルーティング・セレクター**
このセレクターで信号の送信先を設定できます：1)ミックス出力に直接送信 2)クロスフェーダーの左側に送信 3)クロスフェーダーの右側に送信
- 14) **Channel faders チャンネルフェーダー**
各入力端子の音量をコントロールします。
- 15) **Talk-over control トークオーバー・コントロール**
ステージ・ゲイン・コントロール（可変）により、音声信号のコンプレッションが均一に行えます。チャンネル5のルーティング・セレクター（13）がMIXに設定されているときのみ使用できます。
- 16) **AUX/FX-SEND control AUX/FX SEND コントロール**
エフェクターやモニターアンプに送信する信号レベルを調整します。
- 17) **Crossfader クロスフェーダー**
このフェーダーでチャンネル間の切替が簡単に行えます。ルーティング・セレクター(13)をXに設定したチャンネルと、Yに設定したチャンネルを切り替えます。クロスフェーダーつまみを左端に設定すると、Xに設定したチャンネル信号が出力されます。反対につまみを右端に設定すると、Yに設定したチャンネル信号が出力されます。
- 18) **Master output fader マスター出力フェーダー**
スレーブやアンプに出力するCX-1100の最終出力レベルをコントロールします。

CONNECTIONS 接続

- A) **PHONO input フォン入力**
フォン入力の入力感度は2.3mV、RIAA修正機能を搭載しています。
- B) **Ground アース**
ターンテーブルにアース線が搭載されている場合、アース端子に接続してください。
- C) **LINE/LINE B input ライン/ラインB入力**
入力感度220mV。この端子にチューナー、CDプレーヤー、テープレコーダー、MD、カセットレコーダーまたはHIFIビデオデッキを接続します。
- D) **LINE/FX-RET input LINE/FX-RET入力**
サンプラー、フランジャー、フィルター、マルチエフェクター用のリターン入力端子です。ほかのLINE出力機材の入力端子としても使用できます。
- E) **Microphone input マイク入力**
入力感度3.5mVのバランス仕様マイク入力（XLR）です。アンバランス仕様のマイクにも対応します。
- F) **Effects IN/OUT エフェクト IN/OUT**
マイクチャンネルにエフェクターを接続する為の端子です。
端子の中にプラグを差していない場合、マイクチャンネルは正常に動作します。端子内にプラグが挿入されている場合、内部結合に障害が発生しています。
この入出力端子の感度は220mVです。
- G) **Recording outputs 録音用出力**
カセットレコーダー、MDレコーダー、HIFIビデオデッキなどに接続する出力端子です。
- I) **Master output 1 Asymmetrical マスター出力1 左右非対称**

パワーアンプ接続用の出力端子（左右非対称）です。マスターフェーダー1（18）を使い、0～1.55Vの範囲で出力レベルを調整できます。

- J) **Master output 2 Asymmetrical マスター出力 2 左右非対称**
パワーアンプ接続用の出力端子（左右非対称）です。マスターフェーダー2(18)を使い、0～1.55Vの範囲で出力レベルを調整できます。
- K) **AUX/FX-SEND output AUX/FX-SEND 出力**
エフェクター、モニタースピーカー、レコーダーなどを接続する予備出力端子です。ミキサーをもう一台接続することも可能です。AUX出力接続はPRE/POSTフェーダーのどちらにも設定することが出来ます。設定は内部ジャンパーで行います。
- L) **Master output 1 Symmetrical マスター出力 1 左右対称**
パワーアンプ接続用の出力端子（左右非対称）です。マスターフェーダー1（18）を使い、0～3.3Vの範囲で出力レベルを調整できます。
- M) **Master output 2 Symmetrical マスター出力 2 左右対称**
パワーアンプ接続用の出力端子（左右非対称）です。マスターフェーダー2(18)を使い、0～3.3Vの範囲で出力レベルを調整できます。

入出力ケーブルは1メートル以内のものをご使用ください。

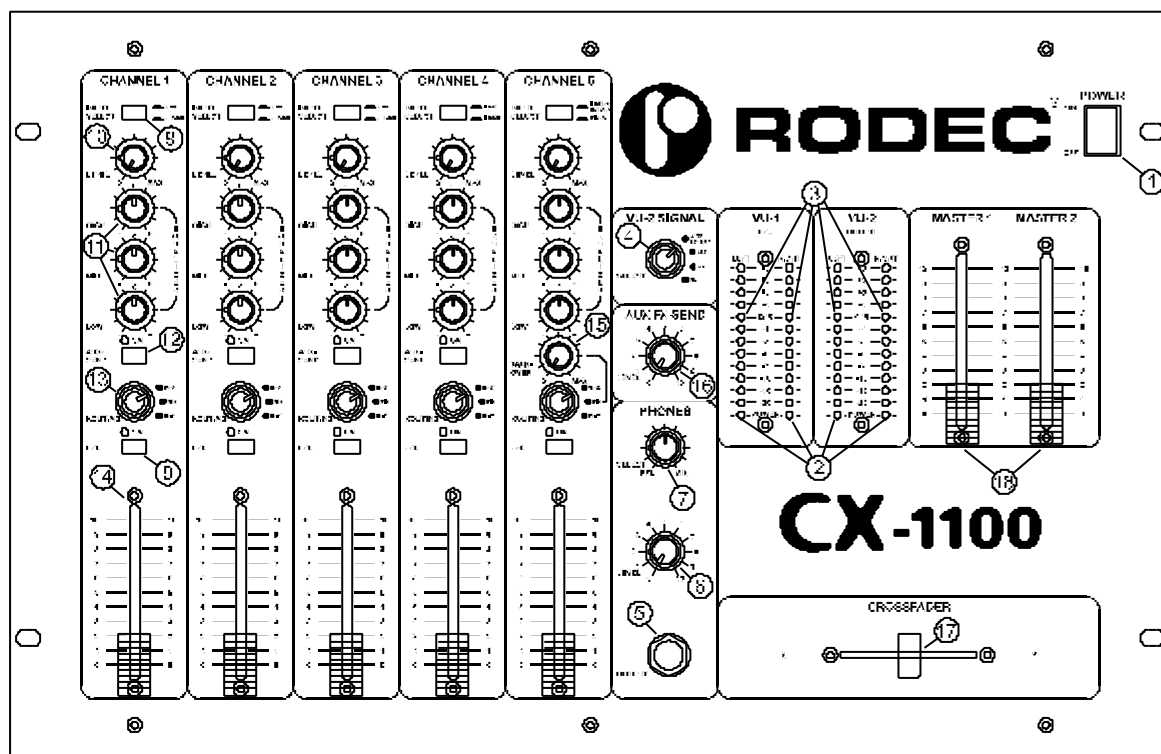
OPERATING INSTRUCTIONS 操作

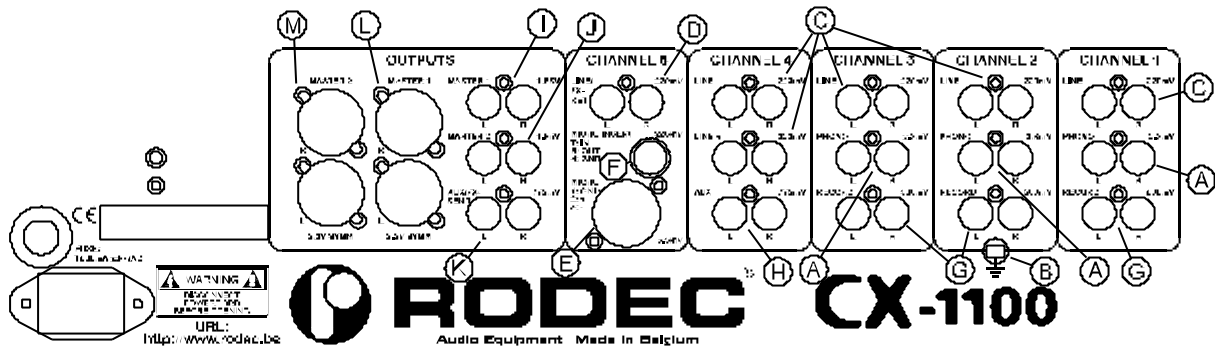
- 1) まずミキサーに接続された音源（CDプレーヤー、ターンテーブル）のスイッチをONにして下さい。次にCX-1100の電源スイッチ(1)をONにします。電源インジケータ(2)が点灯し、数秒後にミキサーのパネルが操作可能になります。ここでパワーアンプをONにして下さい。
 - 2) ヘッドフォンをフォン出力端子(5)に接続してください。
 - 3) 入力スイッチ（9）で音源を選択します。
 - 4) PFL ボタン(8)をONに設定し、任意の音源が聞こえるようにします。フォンセレクトボタン（7）を一番左に設定し、フォン・ボリューム・ポテンショメーター（6）を適度な位置に設定します。これでヘッドフォンにはステレオ信号が出力され、左側のVUメーター×2にもステレオ信号が表示されます。PFL回路はSUMシステムとして作動します。つまり同時に複数の音源を聴くこともできます。いかなるモニタリングを行っても、最終的な出力信号には何の影響もありません。レベルコントロール(10)で入力信号を調整します。レベルメーターの赤いLED（3）が時々点灯する位の信号レベルが理想です。必要であればイコライザー(11)で全体的な音質を整えます。
- ご注意： 各入力に搭載されているEQは音源ソースの音質を個別に調整するものです。全体の音質を加工したい場合、外部イコライザーを使用する事をお勧めします。
- 5) ルーチング・スイッチ(13)をMIXに設定します。
 - 6) 選択した音源のフェーダー(14)を上げてください。
 - 7) マスターボリューム（18）を調整します。
 - 8) チャンネルPFLスイッチ（8）で選択したPFL信号をミックス信号と混ぜることも可能です。その場合フォン・セレクト・ボタン(7)を押してください。
 - 9) 音源を変更したい場合、3)～6)の手順を繰り返してください。
 - 10) クロスフェーダー機能を使用する場合、ルーチング・スイッチ(13)をCF-Xに設定してください。チャンネル信号をクロスフェーダーの左側に送信できます。ルーチング・スイッチをCF-Yに設定した場合、チャンネル信号はクロスフェーダーの右側に送信されます。

- 11) マイク信号を追加するには、マイクを MIC 入力 (E) に接続してください。チャンネル 5 の入力セクター・スイッチ(9)で MICRO を選択します。次にレベルコントロール (10) とトークオーバー (15) を 0 に設定し、チャンネル 5 のフェーダー(14)を最大レベルに引き上げてください。レベル・ボタン (10) でマイク音量を調整した後、チャンネル 5 のイコライザー(11)でマイクの音質を整えます。
トークオーバー機能を使用される場合、トークオーバーボタン(15)を調整してください (0 = カットなし、10 = 100%カット)。チャンネル 5 のルーチング・スイッチ(13)が MIX に設定されている場合のみ、トークオーバー機能を使用することができます。
- 12) 外部エフェクターは AUX/FX-SEND 出力(K)および、LINE/FX-RET 入力 (D) に接続してください。エフェクターに接続したいチャンネルの AUX-SEND スイッチ(12)を押し、AUX/FX-SEND コントロール (16) で AUX/FX-SEND 出力(k)を調整してください。音声信号はチャンネル 5 経由でミックスが可能です。チャンネル 5 の入力セクター・スイッチで LINE/FX-RETURN を選択してください。ここで前出したステップ 4、5、6 を繰り返してください。トークオーバースイッチ (15) もステップ 11 と同様の手順で使用できます。
- 13) ミックス信号を録音したい場合、レコード端子 (G) にレコーダーを接続するだけで OK です。
- 14) 右側の VU メーターには VU2 信号セレクトスイッチ (4) で選択した信号が表示されます。ヘッドフォンや左 VU メーターで PRE FADE 信号と出力信号を比較したい場合、回転スイッチ(4)を SUM に設定してください。SUM に設定することにより、PFL 信号が左 VU メーター×2 に表示され、出力信号がほかの VU メーターに表示されます。

SUBSONIC FILTER サブソニック・フィルター

マスター出力×2にはサブソニック・フィルターが搭載されており、低域スピーカーを DC やサブソニック信号による損傷から保護します。このフィルターを解除することはできません。フィルターにより、10Hz で 25dB カットされます。





Manufactured by: **TRANSTEL SABIMA Ltd.**
 Duboisstraat 48
 B-2060 Antwerpen
 Belgium

Phone: 00 32(0)3/237-36-07
 Fax: 00 32(0)3/216-97-62
 URL: <http://www.rodec.be>
 e-mail: info@rodec.be